

感性と行動文脈の多様性の下で QOL 向上のための感性情報基盤技術の開発

研究代表者 加藤 俊一 研究員

1. 感性情報を含むパーソナルライフログ

感性の多様性分析に、データサイエンスを応用する上での問題点：

- ◆ 個人の感性に関する膨大なデータが必要（相手は人間！）
- ◆ データの質（データの背景となる環境条件・心理条件の統制は？）
- ◆ ビッグデータでは「個」に関する情報が埋没

↓
データを取得するためのプラットフォームの必要性：

- ◆ 個人ごとに、自動的・継続的に、日常生活の中で、**開発中**
- ◆ **環境情報**のIoTによる計測・記録（場所、気温、天気、人数・集中度・人の流れなど） **開発中**
- ◆ **生体情報**（≒心理状態）のウェアラブルセンサによる計測・記録（動作、姿勢、運動量、筋電、心拍、血中酸素、睡眠、集中度など）
- ◆ **パーソナルライフログ**
個人・時刻・時間順序で紐づけられた**準ディープデータ**を集積

↓
個人情報を守ったサービスのプラットフォームの必要性：

- ◆ データ取得→分析・モデル化→サービス選択・制御を行うエージェントを個人のクラウド上に実現する
- ◆ エージェント経由で外部のサービスと連動させる

2. 意思決定過程と行動変容の主観性

感性価値の主観性：

- ◆ 個人が**担う役割・行動**に対する主観的な重要度・優先度（感性価値）
（役割：自分自身、家族、社員・学生、サークルの一員など）
（行動：健康維持、学習、ボランティア、遊びなど）
- ◆ 個人の感性価値に基づく**動機**の強さ
（動機：報酬・他者評価→外発的動機、向上心→内発的動機）

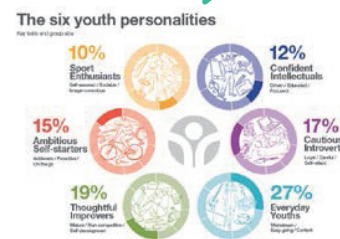
↓
状況認識と行動選択に現れる主観性：

- ◆ 主観的に価値を感じる役割・行動に対して、状況認識が働く。
 - ◆ 行動できる条件は同時並行的に推移
 - ◆ トップダウン的： 価値につながる状況の探索
 - ◆ ボトムアップ的： 物理的な状況からの気づき

- ◆ 個人が**担う役割・行動**に対する態度決定
- ◆ **行動と経験により感性価値が上書き**される

↓
行動変容につながるナッジのためには：

- ◆ 役割・行動に対する感性価値
- ◆ 主観的な状況認識の推定と気づきの提供
- ◆ 経験の可視化



参考：高校生のスポーツ経験と向上のためのナッジ

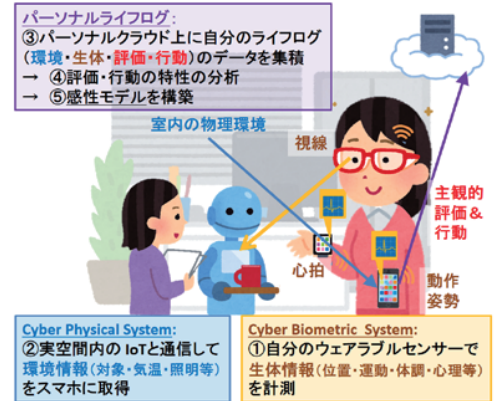


図1 感性情報を含むパーソナルライフログの集積

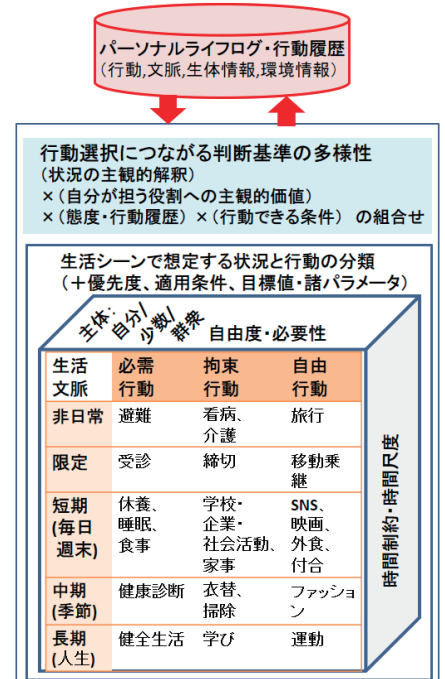


図2 主観的な状況認識・行動選択のモデル

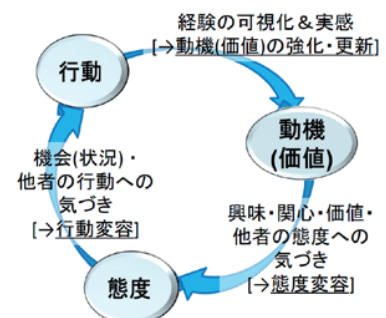


図3 動機に基づく行動過程のモデル